

# 令和7年度 教育委員・社会教育委員 意見交換会 実施報告書

## 1 実施日時・場所

2026年(令和8年)2月12日(木)午後4時  
本庁舎8階 8-3会議室

## 2 出席者

(敬称略)

教育委員	社会教育委員
教育長 岩本 将宏	議長 西村 雅代
委員 石井 由佳	副議長 三宅 裕子
委員 飯盛 義徳	
委員 種田 多化子	
委員 井沼 隆史	

### 〈事務局〉

教育部:川口部長、坪谷参事、(教育総務課)石田参事・小門前主幹・中村補佐  
生涯学習部:井出部長、(生涯学習総務課)谷本参事・三部主幹・滝沢課長補佐・  
守屋課長補佐・渡邊

## 3 協議内容

生涯学習ふじさわプラン 2026 及び令和6年度事業評価結果報告書について

## 4 教育委員からの意見及び社会教育委員からの回答

### 【教育委員】

子どもの居場所づくりが非常に重要。学校に行けない子どもも多い中、市民センターなどに居場所を作ることで、子どもたちの学ぶ機会を確保していただいている。教育委員会と生涯学習部だけでなく、市民自治部等関係各課との連携をさらに強化し、社会教育や生涯学習の講座等を活用しながら、さらに子どもたちの学ぶ機会や世代間交流の場の創出に努めてほしい。

**【社会教育委員】**

藤沢の旧公民館事業は、地域に密着してニーズや人材を掘り起こしてきた歴史があり、子どもたちの居場所として、貸室や施設開放も実施している。今後も、行政の枠組みにとらわれず、地域全体で子どもたちの居場所づくりを進めていけるのではないかと思う。

**【教育委員】**

プランの基本理念「学びあいから地域の人がつながり」の部分が特に良いと感じる。これからの地域は「人づくり」が大切だと思うので、これが基本理念として定められているのは、地域づくりの観点から非常に重要である。

**【教育委員】**

実施事業に大学連携事業(市内4大学市民講座)があるが、4つの大学があるのは、本市の大きな特色の一つ。今以上に、大学や学生と連携した取り組みを推進してほしい。

**【社会教育委員】**

社会教育委員には地元の大学の教員もおり、連携の地盤はある。旧公民館事業でも大学と連携した事業は多かったので、今後もさらに発展していけたらと思う。

**【教育委員】**

本市には地域資源・宝である文化財がたくさんあるので、学校教育にも活用し、シビックプライドの醸成につなげてほしい。

**【教育委員】**

このプランの内容について、みんなが自分事として捉えることが重要。さまざまな媒体で周知し、もっと広く知ってもらうようにすると良いのではないか。

**【社会教育委員】**

情報発信、媒体については、社会教育委員会議の中でも常に議論となっており、何が効果的に届けられるかという視点で考えている。社会教育委員には、民間の視点を持った方々がいらっしやるので、広報や情報発信について、具体的なご意見をたくさん出していただいている。デジタルか紙か、それぞれ利点があり、高齢の方でもスマホを使いこなしている。丁寧に誘導することができれば、スマホを活用する方も増え、広報周知につながっていくと思う。

**【教育委員】**

社会教育は学校教育の延長線上にあるわけではないので、関係性が難しい部分も

あるが、教育委員会としては現在コミュニティスクールを進めているところ。子どもたちは、「‘学び’は学校を出たら終わりだ」と思っているが、大人も学んだり活動したりしている姿を見て、「こういう世界があるんだ」ということを知ってもらいたい。知ってもらうだけでも、次世代育成や地域づくりにつながっていくのではないか。今後も、教育委員と社会教育委員の意見交換会を定期的に設け、学校を核とした地域づくりを進めていきたい。

## 5 公民館と市民センターの一体化に関する質疑 (教育委員からの質問及び社会教育委員からの回答)

### 【教育委員】

公民館と市民センターが一体化した成果は。また、令和7年度の視察を通して感じた変化は。

### 【社会教育委員】

市長部局に変わったことによって、他の機関や地域と連携しやすくなり、学習機会の提供につながるとともに、地域団体との連携もより円滑になり、まちづくりにもつながっていると感じる。活動範囲の拡大、次世代の育成というところが、より強化されていると思う。今はまだ、明確な変化は現れていないと思うが、これからさらに連携は進んでいくと思っている。

### 【教育委員】

どういった団体と連携しているのか。

### 【社会教育委員】

地区の社会福祉協議会などといった、地域団体が挙げられる。公民館と市民センターが別々に事業を行っていたものを一体化し、一緒に発信していこうと努力をしているところである。地域の企業と連携しているセンターも多い。旧公民館と市民センターそれぞれが連携している団体を持っていたが、一緒になったことで連携がより強化できるとともに、入口の区別がなくなったので、地域の方にはわかりやすくなったのではないかと思う。今後目に見える結果として出せるように進めていければと思っている。

以上